

# ブログにおける自己開示：開示内容及び開示機能について

## Self-disclosure on weblog: Contents and functional efficacy of disclosure

木暮 照正  
Terumasa Kogure

福島大学  
Fukushima University  
kogure@educ.fukushima-u.ac.jp

### Abstract

In the present study, self-disclosure on weblog was examined by the online survey. The results indicated that women felt efficacy of self-disclosure on weblog more than men, especially on communication processes, i.e., “return of response”, “verification of idea”, “development of intimacy”, and “social control.” These findings are discussed with comparison on those of the face-to-face communication situation.

**Keywords** — Self-disclosure, Weblog, Efficacy

### 1. はじめに

自分が抱える心配事を誰かに相談する場合、その相談相手に対して「ありのままの自分を開示すること」、すなわち自己開示を行うことは、相談相手に対して多くの材料を提供することになるだけでなく、2 者間の信頼感の形成にもつながることから、有効な行為であるといえる。従来、この自己開示行動は自分が信頼する相手に対して直接に行われる行為であったが（例えば、丹野・下斗米・松井[1]は、親密感の高い相手に対してより多くの自己開示が行われていることを示している）、近年の情報技術の進展により、ホームページやブログ、マイクロブログ、Social Networking Service (SNS)等を通じて、不特定多数の人々に対して自己開示を行うことが可能となってきた[2]。インターネットを介したコミュニケーションでの自己開示は、対面での自己開示とどのように異なるのだろうか？

本研究では、実際にブログ等を開設している人を主な対象者として、ブログ等における自己開示についてオンライン調査により検討した。

### 2. 方法

#### 2-1. 調査対象者

(株) NTT レゾナントが運営する goo リサーチの一般消費者モニタのうち、今回のオンライン調査に回答した 535 名（15-80 歳、平均年齢 = 42.2 歳、 $SD = 11.98$ ）が調査対象者となった（男性は 266 名、平均年齢 = 45.3 歳、 $SD = 12.46$ 、女性は 269 名、平均年齢 = 39.1 歳、 $SD = 10.65$ ）。

#### 2-2. 調査方法

オンライン調査の質問項目はおおよそ 3 つの部分から構成された。1) 回答者の性別・年齢を尋ねる部分、2) ブログ等（SNS での日記やマイクロブログを含む）を開設しているか？ブログ等に『ありのままの自分』のことを記事として掲載したことはあるか？（自己開示の有無）、具体的な読者を想定して記事を掲載したか？

（想定読者の有無）、どのような話題について開示したか？（開示内容）、自己開示を通じてどのような効用があったか？（開示機能）を尋ねる部分、3) 対面場面で実際に会う間柄で、関わりの多い同性の人を 1 人想定してもらい、その人との親密度を 5 件法（1：かなり親しくない～5：かなり親しい）で尋ねた上で、その人に対してどの程度個人的な話題を開示したか？

（開示内容）、自己開示を通じてどのような効用があったか？（開示機能）を選択式で尋ねる部分の 3 つであった。

開示内容としては、丹野・下斗米・松井[1]を参考に、「自分の性格で他人とは違うと思う部分」「特技についての話」「親やきょうだいと自分の関係」「これまでの恋愛体験」「社会に対する不

満」「好きな映画や音楽についての話題」「将来への期待や不安」の7つの話題内容について5件法（1：全くない～5：よくある）で尋ねた。開示機能としては、古川[3]他を参考に、（自己開示によって）「気持ちは落ち着いたか？（感情浄化）」「自分の考えや気持ちは明確になったか？（自己明確化）」「相手からコメント等が返ってきたか？（返報性）」「相手から、『同感である』『共感した』というコメントをもらったか？（社会的妥当化）」「相手とよりいっそう仲良くなったか？（2者間の発展）」「相手に自分のことが正しく理解されたと感じたか？（社会的コントロール）」の6つの開示による機能の効用について5件法（1：不快～5：快）で尋ねた。

調査の実施は（株）NTT レゾナントの運営する goo リサーチに委託した。

### 3. 結果と考察

#### 3-1. ブログ条件

ブログ等を通じて自己開示を行っているとは回答した者は全体の21.5%( $N = 115$ )であった。そのうち、想定読者ありと回答した者は58.3%( $N$

= 67), なしと回答した者は41.7%( $N = 48$ )であった。

回答者の性別及び年齢, ブログの想定読者(想定読者の有無)と全ての交互作用を独立変数とし, 上述の自己開示内容(7変数)及び自己開示機能(6変数)をそれぞれ個別に従属変数として投入した重回帰分析(ステップワイズ法)を実施した(表1)。開示内容については3つの従属変数において有意なモデルが得られたが, 全般的に一貫した傾向は認められなかった。開示機能については, 感情浄化機能を除いて, 有意なモデルが得られた。とくに交流機能(ブログに掲載した内容が契機となって他者とコミュニケーションを図ることで得られる効用, 返報性・社会的妥当化・2者間の発展・社会的コントロール)では一貫して性差の主効果(男性<女性)が認められた。ブログ等に掲載する自己開示の内容や自己内機能(自分のことを表明することで得られる効用, 感情浄化と自己明確化)では性差の主効果は認められず, またその評価値も相対的に低い, 交流機能においては男性よりも女性の満足感が高いといえる(図1)。

表1 ブログ条件の重回帰分析の結果

|           | $N$ | 性別<br>(1) | 年齢<br>(2) | 想定<br>読者<br>(3) | 1x2  | 1x3 | 2x3   | 1x2x3 | $R^2$ |
|-----------|-----|-----------|-----------|-----------------|------|-----|-------|-------|-------|
| 性格        | 115 |           |           |                 |      |     |       |       |       |
| 特技        | 115 |           |           |                 |      |     | -.236 |       | .056  |
| 親きょうだい    | 115 | .246      |           |                 | .222 |     |       |       | .087  |
| 恋愛体験      | 115 |           |           |                 |      |     |       |       |       |
| 社会に対する不満  | 115 |           |           |                 |      |     |       |       |       |
| 好きな音楽映画   | 115 |           | -.196     |                 |      |     |       |       | .039  |
| 将来について    | 115 |           |           |                 |      |     |       |       |       |
| 感情浄化      | 86  |           |           |                 |      |     |       |       |       |
| 自己明確化     | 86  |           |           |                 | .229 |     |       |       | .052  |
| 返報性       | 81  | .315      |           |                 |      |     |       |       | .099  |
| 社会的妥当化    | 79  | .310      |           |                 |      |     |       |       | .096  |
| 2者間の発展    | 68  | .267      |           | .267            |      |     |       |       | .156  |
| 社会的コントロール | 71  | .243      |           |                 |      |     |       |       | .059  |

Note. 性別（男性 = 0, 女性 = 1), 想定読者（なし = 0, あり = 1)

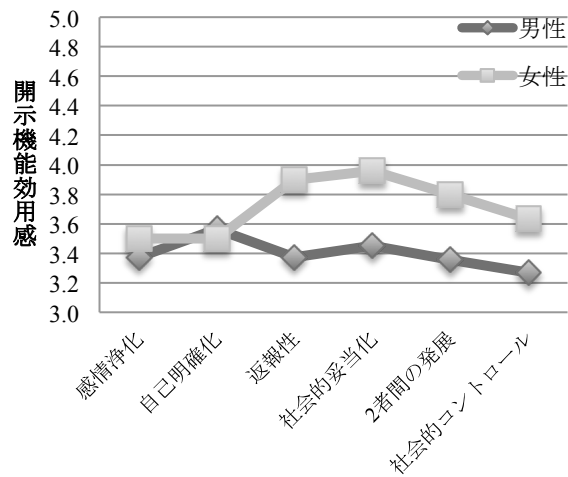


図1 ブログ条件の開示機能効用感

3-2. 対面条件

回答者全数(N = 535)を対象として、回答者の性別及び年齢、開示相手との親密度と全ての交互作用を独立変数とし、上述の自己開示内容(7変数)及び自己開示機能(6変数)をそれぞれ個別に従属変数として投入した重回帰分析(ステップワイズ法)を実施した(表2)。すべての従属変数において有意なモデルが得られた。自己開示内容・機能のほとんどにおいて性差(男性<女性)と親密度(低<高)の要因が有意となった。自己開示のベースとなる対面条件では男性

よりも女性において自己開示の頻度が高く、その満足度も高いということ(図2)、また親密度の高い友人に対してより多くの自己開示を行うとともに、満足度も高いことが示された。

4. 総合考察

対面条件では開示内容・開示機能ともに性差(男性<女性)及び親密度の影響が認められたのに対して、ブログ条件では開示機能のうち交流機能においてのみ性差が認められた。一般に、対面場面での自己開示では、女性の方が男性と比べて自己開示の程度が高いという報告が多く、性役割観の観点から解釈されている(女性が自己開示行動を頻繁にとっても社会的に容認されるが、男性の場合は容認されにくい等)[4]。また、ブログ上での自己開示においても、直接的な検討ではないが、Guadagno, Okdie, & Eno [5]の研究から女性優位の可能性が示唆されている。本研究で認められた性差についても、[4][5]の研究と符合するものであったといえる。

しかしながら両条件の性差の効果を比較すると、対面条件では全般的に性差が認められたのに対して、ブログ条件では一部の条件でしか認められなかった。対面条件で認められた女性優

表2 対面条件の重回帰分析の結果

|           | N   | 性別<br>(1) | 年齢<br>(2) | 親密度<br>(3) | 1x2   | 1x3   | 2x3  | 1x2x3 | R <sup>2</sup> |
|-----------|-----|-----------|-----------|------------|-------|-------|------|-------|----------------|
| 性格        | 535 | .099      |           | .260       |       |       |      |       | .082           |
| 特技        | 535 |           |           | .236       |       |       |      |       | .056           |
| 親きょうだい    | 535 | .292      |           | .246       |       |       |      |       | .160           |
| 恋愛体験      | 535 | .170      | -.236     | .194       |       |       |      |       | .152           |
| 社会に対する不満  | 535 |           |           | .259       |       |       | .133 |       | .083           |
| 好きな音楽映画   | 535 | .137      |           | .293       |       | -.089 |      |       | .121           |
| 将来について    | 535 | .178      |           | .252       |       |       |      |       | .103           |
| 感情浄化      | 443 | .187      |           | .235       | -.104 |       |      |       | .105           |
| 自己明確化     | 450 | .100      |           | .217       |       |       |      |       | .059           |
| 返報性       | 455 | .173      |           | .165       |       |       |      |       | .060           |
| 社会的妥当化    | 449 | .168      |           | .229       |       |       |      |       | .085           |
| 2者間の発展    | 356 | .163      |           | .205       |       | -.106 |      |       | .075           |
| 社会的コントロール | 455 | .094      |           | .213       |       |       |      | .142  | .055           |

Note. 性別 (男性 = 0, 女性 = 1)

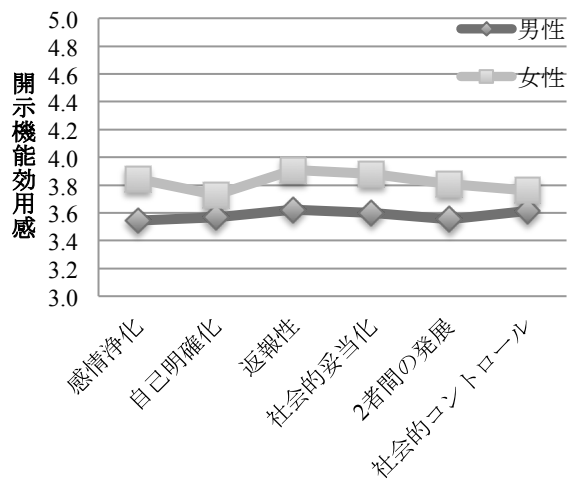


図2 対面条件の開示機能効用感

位が自己開示における基本的な傾向であるとする  
と、ブログ条件の自己開示内容及び自己内機能  
の開示効用において、その性差が消失したと  
考えることができる。実際のデータ・パターン  
からは、ブログ条件、とくに自己開示内容にお  
いて女性群の得点値の低下傾向が読み取れる  
(男性群の開示内容平均：対面 2.7→ブログ  
2.5；女性群の開示内容平均：対面 3.1→ブログ  
2.5)。このことから、男性はもとより女性にお  
いてもブログ等で活発に自己開示がなされてい  
るとはいえず、また、ブログに記事掲載するだ  
けでは感情浄化や自己明確化といった自己内機  
能の開示効用も感じられていないといえる。こ  
れは男女ともにブログを通じて不特定多数の人  
に自己の内心を晒すということに対して慎重に  
なっているためではないか。ただし、交流機能  
の開示効用では女性優位の性差があり、女性は  
ブログ等を契機とした交流過程で慎重に開示相  
手の信頼性を見極めようとしており、それが功  
を奏して新たな友人が獲得された場合に、効用  
感が得られている可能性は考えられる。この過  
程の妥当性については、今回の調査データでは  
分析することができないため、今後の検討課題  
である。

なお、ブログ・SNS・マイクロブログ等のツ  
ールごとで開示内容や開示効用感が異なる可能  
性も考えられるが（マイクロブログの方が通常

のブログよりも更新頻度が高いため、より感情  
的な側面の開示内容が書かれやすい等)、今回の  
調査では使用ツールの詳細までは尋ねていない  
ため、これを独立変数として分析することはで  
きない。この点についても今後の詳細な調査が  
必要である。

## 5. 付記

本研究は、著者の指導の下で実施された 2010  
年度福島大学人間発達文化学類卒業論文  
「Computer-mediated Communication と対面型コ  
ミュニケーションにおける自己開示内容と自己  
開示機能に関する探索的研究」(武田華那さん)  
のデータの一部を再分析したものである。付記  
して謝意を表す。

## 参考文献

- [1] 丹野宏昭・下斗米淳・松井豊 (2005). “親密  
化過程における自己開示機能の探索的検討－  
自己開示に対する願望・義務感の分析から－”  
対人社会心理学研究, Vol. 5, pp. 67-75.
- [2] 山下清美・川浦康至・川上喜郎・三浦麻子  
(2005). “ウェブログの心理学” NTT 出版.
- [3] 古川良治 (2008). “インターネットにおける  
自己開示研究の方向性に関する考察” 社会イ  
ノベーション研究, Vol. 3, pp. 1-18.
- [4] 榎本弘明 (1997). “自己開示の心理学的研究”  
北大路書房.
- [5] Guadagno, R. E., Okdie, B. M., & Eno, C. A.  
(2008). “Who blogs? Personality predictors of  
blogging” Computers in Human Behavior, Vol.  
24, pp. 1993-2004.